
xxxゲーム

hi

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

×××ゲーム

【Zコード】

Z0563C

【作者名】

h_i

【あらすじ】

主人公がリアルゲームに巻き込まれて行く話

1st game：ゲーム開始前夜（前書き）

この小説は自分が見た夢そのものです。結構グロい（そおなる予定な）んでダメな方わ読まないほおが賢明です。

{ } { }

電話だ

「はい。もしもし。なんの用？」

「その素っ気ないのやめろよーー！」

うちの名前わ時沢月〈トキザワルナ〉。中学二年生。これでも一応女子(・・・)

今幼馴染みの佐野多樹〔サノタキ〕と電話中。

「じゃあなに?」多樹君へなーにー?“つて書かれてればいいの?」

「…それも逆にやめてくれ（××）つてそんなこと聞こえてる話したんじゃなくて、明日何こでる？」

「……空いてるよ！ なんで？」

「それわ畠田のお楽しみ
じゃあ明日×月曜日でーーじゃ

!

明日何があるんだろ……？？まあ暇だつたし行ってみますか〃^__^

これからなにが起ころるか用と多樹にわまだ知る由もなかつた……

1st game・ゲーム開始前夜（後書き）

まだまだ始まつたばっかですがよろしくお願ひします（〃・・ノ

2nd game・謎の人物（前書き）

評価してくれたら嬉しいです。

2nd game・謎の人物

翌日の朝

「……ん~……えつーーーもおこんな時間ー?ー?」

「お言つとあたしわ急いで支度を始めた。

「お母さんなんで起ひこられなかつたのーーー。」

〔 3回くりこ起ひこつたよ。〕

「 もーーーーーー行つてきまーーー。」

「「ノメンンーーー待つた??.」

「待つた。でも時間一度つてことで許す。行ひばざー。」

やお言ひとが樹わスタスター歩き始めた。

「 今日どじ行くの??」

「……なんか俺の友達がこれあげるよつて……」

それわとある映画の割引き券だつた。

「その映画あたしがめっちゃ見たかつた映画じゃん！」「だろ？？2枚貰つたし、月、見たいって言つてた気が

「だろ?? 2枚貰つたし、月、見たいって言つてた気がしたから…」

そんなこと覚えててくれたんだ…

「ありがとう」

多樹の顔がなんか赤い… 照れてる〃^ ^) ノ

そういうしているうちに映画館に着いた。
チケットを2枚買い席に着く。

楽しみだなあ

映画が始まつたケドスクリーンわ真つ暗…

なんか変……

「なんか遅くね？？」

大根の話

「なんか変だよね？？」

周りも異常に気付いたのかザワザワし始めた。

その時スクリーンになにかが映し出された。

「この中で割引き券を使ってない方わこの場から出でていってください。後ほどそのチケットで同じ映画を見れるよおに手配します。」

逆らつちゃいけないと思ったのか半分くらいの人が立上がり出口のほうへ向かった。

「ここに残つてこる皆様方をこちりに招待しておしあげましょ。」

スクリーンの人物がそお言つと

「シュー

館内にガスのよおなものが噴射された。

「ヤバいんぢゃない??

「ドア開かないぞ!..」
「うつちもだ。」

「一体なにが起つてんの!?」

そのままみんなが眠りこついた……

2nd game・謎の人物（後書き）

また駄文ですいません…今後自分でもどうなつていいくのかわかりませんがなにぞよろしくお願いします。

3rd game・ゲーム開始（前書き）

やっと本題です。

3rd game : ゲーム開始

田が覚めたら「」に広い大広間にいた。

「…………だね？？」

「…………」多樹の声だ

「…………よ~」

「よかつた。どうか行つちやつたのかと思つた……」

「…………なんだろ……」

「皆様お田覚めになりましたか？？」

わざわざの映画館での声だ…

^これから監督さんとわゲームに参加してもらいます。^

.....はあ？？

いきなり何いつてんだ？？

^ 内容わ.....まあ簡単に言えば命に危険のあるアドベンチャーゲームって感じですかね . . . ^

命に危険のあるつて.....

[命に危険のあるゲームって？？]

› 言葉通りですよ。死ぬかもしれなってことです。 <

「なんで俺たちが??」

› ランダムですよ。 <

大広間に沈黙の時間が流れれる

› 皆さん質問の方わ大丈夫でしょうか。それでわゲームの説明をします。 <

そお言うと大広間にスクリーンが出てきた。

› 基本一人一組で行動してもらいます。一人で協力してゲームをクリアしてください。 <

スクリーンに図が現れる。

♪ 開始の合図とともに皆さんをバーチャル世界へ連れて行きます。
そこでいろいろなゲームに挑戦してもらいます。ゲーム挑戦中に傷ついたらこちらにある本体にも傷がつきます。ということわゲーム中に死んでしまったら本体のほうも死んでしまうということになります。<

周りがざわざわし始めた

本体ガ死ヌ

誰がそんな言葉を信じることができるの??

信じられないよ.....

「大丈夫だよ。心配する」とねえって。」

多樹の言葉わ力強かつた

「ありがとお……」

「それでは皆さん」にわバー・チャル世界に言つてもらいましきう。必要なものわむけいづで支給されます。準備わよろしいでしきうか。
必

わつわいじから出れないとわ確認したし……やるしかないね。

「それでは皆さん田を開じてください。」

頑張ろうな！

「うん！」

→それでは…………ゲーム開始！！！！！←

3rd game：ゲーム開始（後書き）

読んでくれた人わ評価してくれたら嬉しいです。

4th game : first game (前書き)

更新遅れています…

4th game · first game

>ゲーム開始！！<

合図と共に「ビ」からか光が差してきた

目が覚めたら森の中にいた

「月、大丈夫か？」

「うん。」

>皆さんお目覚めですか？<

今度わ誰だろ？？

^__^からわ私がご案内致します。私は如月キサラギと申します。^

如月さんと名乗る男の人わ全身黒のスーツで統一されていて細身で
背が高く、

不思議な雰囲気が漂つた人…

まあ 一言で言えば学校にいればいつも周りに女子がいるよ・な人。

でもうちわ正直そんなにカッコいいとわ思えない…

そんなことを考へてると如月さんが喋り出した。

^__^皆様にわ__れから__のジャングルでゲームに参加していただきま
す…^

まず2人組になつた。
もちろんうちわ多樹と。

説明の内容を大まかに書くと

設定としてわ、
このジャングルわあくまでバーチャル世界だから変な怪物とか出
てくるみたい…

ゲームがクリア出来なかつたら現実世界に連れ戻されてペアの人との記憶わなくなるらしい。

あと、もし現実世界で”死”に値するよ - な出来ことがゲームの途中で起こつたらその被害者わ現実世界でも死んでしまうらし - :

その話を聞いた途端みんなが騒ぎ出した。

> ... それでは first game の説明を ... <

みんなが一斉に静まった

> 森の中央に神殿があります。first game はその神殿まで行って番号付の鍵を取ってきてください。番号わこれからお渡しする地図に記入してあります。それを本日の 23:59 までに地図の赤い X 印のところまで持ってきてください。ちなみに現在時刻は 16:20 です。

<

その言葉と同時に地図と時計が配られる

現在地わ森の端っこ。中央までわ結構あるけど...

1秒でも過ぎちゃったら駄目なのかな??

思つてたことを代弁するかのように多樹が言った。

^\ 59分を一秒でも過ぎると黙田なんですか？？

^ いいえ。そのままケチじゃないんです。59秒まで待つてしゃあね
ましょ。づ。

<

ケチとかそ - ゆ - 問題じゃないんだけど…まあいつか

^ 他に質問わざありますか？^

数秒の沈黙 . .

^ それでは今よりfirst gameスタートです！ - ^

4th game · first game (後書き)

今後のため、コメントを頂けると嬉しいです。

5th game・驚愕の事実（前書き）

しばらくぶりです。なかなか更新できなくてすいませんでした。
なにかからの「メント」を参考に少し書き方を変えてみました。
み

5th game・驚愕の事実

「first gameスタートですーー。」

そんな姫川さんの令団とともに最初のゲームが始まった

とつあえず私達は団体行動をとることとした

そのほかが安全だし

私達が一列横隊で森の中を進んでくると……

「……?! うわあああーーー！」

いきなり先頭のほかから叫び声が聞こえてきた

「なにが起きたんだーー？」

レ

急いで先頭に行つてみると……

なんだか異臭がして……

下をみると……

人のものだと思われる手や足がそれから中に落ちてこる

先頭の人たちのものなんだろう……

私は怯えていた

周りのみんなも恐怖のあまり立って須へしていた

「なんだよ……」「れ……」

そこのへんに死体がころがっている……

それわ信じられない光景だった……

「酷い……」

「俺達こんななんになつちまつのかよ……」

「とつあえず先進んでみないか?」

そうだ……今はこんな感じで立ち止まってる時間なんかないんだ……

「やつだよみんな……今は先に進んで」のゲームをクリアしなおや
か

〔やつだよな…〕

〔やつしかないもんね…〕

そんなことなどみんな無事にクリアする」とができました。

ホテルでは姐田さんが出迎えてくれましたが…

〔お前……なにが起つたかわかつてんだうつな…〕

まあそつ怒らないでくださいよ。^

「田の前で人があんなことになつてて…怒んのもむりねえだらうが
……」

「でも最初に死ぬかもつて言こませんやしたつけ? く

〔 つ………… 〕

「さあみなさん。御食事の時間です。食堂に御集まつください。食
事の後第2ゲームの説明を致します。 く

明田は第2ゲーム……
また今日みたいなことがあるかもしけない……
でもやるしかないんだ。

5th game・驚愕の事実（後書き）

今後注意したほうがよことなどありましたら是非コメントのまつりあいしてお願いします。

6th game·Final Game -序章- (前書き)

長いこと更新しなくてすいません(ーー)m

夜が明けた一田田の朝

昨日の恐怖が頭から離れない・・・

「おまえが死んでやる。」

「ぬ、おまえが死んでやる。」

「いいですね・・・」

「死んでですね・・・」

そんな会話が続こんると

^_皆様、朝食の準備が整いました。お集まりください。
^

如円さんからの放送が流れた。

^_えへ、皆さんお集まり頂けたでしょつか。
^

^_それではお話致します。昨日も申し上げました通り、今回は男女に分かれて参加して頂こうと思います。
^

そう・・・昨日も言われた。

男女で別々のゲームをするつて。

^_内容はゲームのスタート地点に着いてからお話したいと思います。
^あ、朝食の準備が整ったようなので、食事に致しましょつか。
^

朝ご飯は普通だった。
その普通さが逆に怖いへりやん・・・

朝ご飯を食べ終えたうちらは
指定された場所に移動した。

› 皆様おそりいでしょうか？？

› それではここからは男女別で行動して頂きます。<

そうしてうちらは別々の道を行つた。

そしてうちら（女）は
森の中にある小屋らしきところに連れてこられた。

› 女性の方々はこれからある一連のストーリーの主人公となつていただきます。<

一瞬言つてゐる意味がわからなかつた。

› つまりRRPGをして頂きたいのです。<
リアル・ロールブレイング・ゲーム

まだどうこう意味かわからなかつたが
そんな」とを考えている暇など『える』ことなく
如月さんの話は先へ進む。

「いまから渡す紙にストーリーの概要が途中まで書かれています。
そのストーリーの続きを自分で作り上げてください。」

一枚の小さな紙が配られた。

そこには

『遠く離れた孤島にさらわれてしまった仲間を連れ戻す為、少女は
と書かれていた。

「そこに書かれている『仲間』とは先程まで一緒にいたパートナー
のことです。」

「！？！？」

信じられない・・・

^パートナーを助けられるリミットは五日後の19:00までです。
このゲームが最終ゲームなので頑張ってください。それでは。
そう言って畠山さんはどこかへ行ってしまった。

これがいわゆる地獄のファイナルゲームの始まりだった。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連＝横書きという考えが定着しようとっています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n0563c/>

xxxゲーム

2010年10月14日01時40分発行